

平成 29 年度 第 6 回御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会 次第

日 時:平成 30 年 3 月 20 日(火)

13:00～

場 所:市役所東館 201～203 会議室

1 開 会

2 会長あいさつ

3 平成 29 年度市民協働型まちづくり事業 講評

【流れ】

- ①点数を公表
- ②発表順に、担当委員がそれぞれの事業の感想を述べる。
- ③牛山教授からコメント

① 防災都市御殿場づくり体験の日

団 体 名:防災都市御殿場づくり体験の日実行委員会

行政担当課:危機管理課

(委員) 私は実際その場には見に行っていないが、非常に説明が分かりやすく、私は割と高い点数をつけたが、防災という、今、非常に意識をもっていかなければならないことをテーマとして掲げられたのはよかったと思う。私共の施設(中央青少年交流の家)でも「防災キャンプ」ということで子どもたちを対象としてキャンプをやりまして、やはりこの近隣にいる人の意識として持っておく必要があるテーマということで、非常に共感を覚えた。

(委員) 私は 3 回行われたもののうち、9/23(土)開催の講演にお伺いさせていただいたが、開催される時刻についてもなかなか難しいのではという感想。夜ではなかなか 2 時間の講演を聞くというのは難しく、そこが集客に結びつかなかったのでは。また 10 月、11 月に開催されたディベート形式のものについては、告知・周知が難しかったのではと思う。次年度は開催日程や時間等について子供会の意向を盛り込んで、親子で参加できるような形にしたいと言っていたので、それはその通りだと思う。あとは、御殿場市全体というよりも、東山区の中で熱いものを感じたので、非常にもったいないと思う。もっと一般市民も行っていたりするような方向で考えてもらえると、非常に大切なことなので、次年度、更に期待して、参加させていただければと思う。

(会長) 私も参加させていただいたが、申込書を提出しなければいけないという部分で参加しにくさを感じた。また、ネーミングについて、「心と体のケアを考える」というと間口が狭くなると思う。実際に話を伺うと、防災において重要であることがひしひしと伝わってくるが、それが多くの人に伝わらないことが非常に残念。

② 富士山みくりやよってかつ祭

団体名:富士山みくりやよってかつ祭

行政担当課:観光交流課

(委員) この「富士山みくりやよってかつ祭」について、参加させていただいて、大変な台風が来るという状況で、参加者も出演者も大変な状況だったと思う。そのような中で、参加者が来ないという事で空いてしまったところをどうしようかということ、担当者が一生懸命穴埋めをしながらやっていたのは印象的だった。屋外での公演はできなかったが、ホールの中でのいろいろな団体の発表・パフォーマンスはとても良く、皆さん「元気が出るね」ということは口々におっしゃっていた。実際に広報などされていたため、僅かではあるが一般の方も入って来て、「ここに来ると元気が出る」というのも実際に聞いたため、効果はあったのかと思う。ただ、パフォーマンスの団体としてのよってかつ祭というか、少し固まった団体が多かったため、ほかの団体にそれが波及していくことがとても大事なのではないかと思う。「元気になる」というのはまちが豊かになり、賑やかになり、元気がもらえるということで、非常によかったと思う。

(委員) 非常に天候が悪い中で、本当は屋外でやりたかったところだとは思いますが、急遽、そういった状況にもかかわらず、出演順の入れ替えや会場の配置などよくできていたと思う。悪天候もあり来場者は非常に少なかったが、県外からの参加団体もあり、観光の立場で言えば、市外からの集客が一つの目標になっているため、もし天気が良かったらもっと貢献してもらえるようなイベントになるのではないかと思う。初年度は開催までの期間が短く、今年度は悪天候と、条件に恵まれなかったが、来年度も実施するのであれば、良い条件でやってみてどうなるのかを見てみたい。

(委員) よってかつ祭については、以前から参加させてもらっているが、内輪な感じがちょっともったいない印象。沼津など他の地域でのイベントをテレビで見たことがあるが、参加団体の順位付けや、町中が歩行者天国になるなど、イベントの規模が違う。助成金を受けてイベントを開催するのであれば、せめてそれぐらいの規模のものにしてもらいたいと強く感じた。まちをつくる、まちを盛り上げる、という視点に欠ける。非常に元気の良い方たちがやっているだけに、もったいない感が強い。もうちょっと大きく出てほしい。

(委員) そもそもイベントをやるのであれば、雨天時の対応についてもしっかりと計画を立てるなどしないと、粗雑な形になってしまう。リスクヘッジをとるべき。実際に参加していないため、分からない部分もあるが、天候が悪かったからバタバタしてしまったというのは、主催者側として問題があるのではと感じた。

③ 御殿場フィルムコミッション支援事業

団体名:NPO御殿場フィルムネットワーク

行政担当課:魅力発信課

(委員) 本事業の打ち合わせにも顔を出させてもらった。今回はシステムの構築ということで、メルマガとHPを作るために本補助制度を利用したとのことだが、事業としてはもっとやることが多いと思う。御殿場映画まつりにも参加させてもらったが、非常に驚くほど質の高いもので、御殿場でないと撮れなかった映画があった、ということをもっと多くの御殿場市民にも知ってもらいた

いと思い、また御殿場はロケの街なのに、映画館がひとつもないことを非常に残念に思った。次年度以降どのように活動するかは伺っていないが、魅力発信課の「下請け」にならないようにしてもらいたい。

(委員) 最初の頃に人が足りないとのことで、うちの会(NPO 富士山御殿場ガイド御厨の風)から何人がサポートに回り、また、私も後に会員に登録させてもらった。団体と行政(魅力発信課)とが協力して進めており、まさに「市民協働」の姿であると思った。映画まつりにも参加したが、市長から「黒澤明氏の記念館を」のような話もあった。

(会長) 私もメールマガジンに登録してもらい、映画まつりにも参加した。本事業について、もともとイベントも予定されていた？(⇒事務局: 予算書には含まれていた)思ったよりも盛大に行われたという印象。黒澤明氏についてそれほど身近に感じてはいなかったため、どれほど盛り上がるだろうかと心配だったが、御殿場の財産として磨くことができるものだということを実感した。先程、小高委員もおっしゃったとおり、行政の下請けにならないように、独自の力で考えて協働してもらえればと思う。

(委員) 欧米などでは「黒澤明」という存在は物凄くて、海外で「日本から来た」というと「富士山」と「黒澤明」が必ず出てくる。日本人自身が黒澤明のことをあまり知らないため、そういった「すごい財産」を持っているということを知ってほしいと思う。

④ 親と子の発達支援プロジェクト

団体名: 道しるべの会

行政担当課: 子育て支援課(子ども家庭センター)

(委員) 人数が少ない中で、プログラミングロボットの購入についてどうかという意見も出ていたが、参加された子どもの反応は非常に良かった。既成概念に囚われないプログラミングの方法を思いついて、講師が考え付かないようなロボットの動かし方をして、独自の進み方でゴールに到達するという、発想が素晴らしいと感じた。そういった子どもたちの居心地がよく、才能が発揮できる場所・分野であるということは間違いない。今はたった3台で3組という感じだったが、これからの可能性ということで、予算で購入した機材をこれからどう活用していこうかということに彼女たちは考えている。

次に講演会については、発達障害の子を持つ親の日常、特に家庭での状況がこうなんです、といったことについて、等身大の事情を話してくれたと思う。いろいろな人がそれを聞いて、感じるものがあり、やはり「違いを認めていく」「居場所づくり」という話は何回か出たが、居心地がよく安心できる場所を作ってあげることがどれだけ大切かということがよくわかる講演会だったと思う。

よんでやっていた夫婦のすれ違いというもの、彼女自身が既に何度か講演会でやっていることだが、夫婦・子どもたちの色々な違いを認める、個性を伸ばしていく、認めてあげる、居場所を作ってあげるという部分で、今、彼女は、参加人数は少なかったが、何千人というベースの中で活動しているので、これからどんどんスキルを上げて、次には広がりのあるものを考えているので、今後に期待だと思う。

⑤ 食育とキッズクッキング

団体名:キラキラキッズクッキング

行政担当課:子育て支援課(子ども家庭センター)

(委員) 私は参加できなかったが、説明を聞いた限りではすごく一生懸命にやっていて、前回よりもまた進歩できたなと感じた。

(委員) 私も参加できなかったが、食育ということで食に対する教育やコミュニケーションの構築というところで素晴らしい活動だと思う。市からの補助金上限 30 万円を全てを使い切るのではなくて、自分たちの活動を維持・発展させていくためにどの程度必要なのかということをし、しっかりと計画を立てて行っていたことも素晴らしいと思う。

(会長) クッキングだけでなく、いろいろな体験をしたという中に、環境課職員が出て「ゴミ分別ゲーム」をされたとの説明があったが、それは環境課に直接依頼があったのかどうか。

[杉山委員(環境課)]

昨年ぐらいに、団体から環境課に声を掛けてもらった。環境課としては、ゴミの分別についていろいろな場面で「ゴミ分別ゲーム」を行い、ゴミをいかに減らせるのかということを感じてもらえるような取り組みを進めているが、その一つ。

⑥ 我が家流子育てをつくろう！～家族のコミュニケーション力向上事業～

団体名:Motherese(マザリーズ)

行政担当課:子育て支援課(子ども家庭センター)

(委員) 私は参加できなかったが、お話やこれまでの活動状況を見ても、点数の高い事業であり、非常に成熟していると感じた。今後続けていく中で、収支の状況を見ると、印刷製本費に主に支出しており、事務に対する投資費用にはお金が使われていないということで、今後事業を拡大していくにあたってのなんらかの措置(今後、どういったことをやって事業を拡大していくのか)が課題では。集客 15 組満の、最終的には 14 組になったということで、途中ではなかなか人数が集まりきらなかったのかなという印象。そこをどう広報活動することによって、集客をしていく、事業を広める、拡大していく、事業を継続していくというところを一つの課題としながら、次回につなげていただけると、非常に素晴らしい事業になっていくのではないかなと思う。

(会長) 今、大割さんが言ったように、チラシデザイン料・印刷製本費が非常に高くなっているが、これは、チラシの配布によって今後自分たちの活動が広まることを期待したもの。印刷費 12,269 円の方が、広報・周知に係るもので、印刷製本費 145,476 円が、保育園や市内に配布したものに係るものだと思うが、書き方が分かりづらい。

⑦ 富士山の保護活動～森林限界付近の植生調査と御殿場口砂礫地の環境に係る冊子の作成～

団体名:NPO法人富士山の森を守るホシガラスの会

行政担当課:環境課

(委員) ホシガラスの会の本年度の活動の目的は、冊子の作成を主とし、同時に調査は継続するといったもの。このことから、事業として皆さんに参加してもらうというよりは、学術的な形での調査及び調査結果に対する市内の同じような目的で活動している団体との横の連携が主になった。行政とも常に連携して事業を進められている。非常に地道な活動ではあるが、自然環境を守るという基本的な面においては、他では高い評価を受けている。市議会議員や財産区議員も、本会の案内で富士5合目に行っている。たくさんの団体・企業が富士山の5合目で植栽をしているが、ほとんどが枯れてしまっている。これは富士山の環境に適合しないものや、富士山の在来の植物でないものなどを植栽しているということを、学術的に明らかにし、また表面だけでなく地中も調査しているが、将来にわたって非常に立派な活動だと考えている。したがって、今学校にしても財産区、市議会議員にしても、富士山に植物を植えるということをもう一度見直した形でもって取り組もうという機運が出てきており、これは大きな成果だと思う。今すぐ結果が出るものではないが、今回このような冊子として形になったことは、非常に大きな成果だと思う。

(委員) 環境課の立場としても本会とはよく話し合いをしているが、今回の冊子に関しても、過去、現在のデータそして将来予測と、分かりやすい形で資料の作成ができたと本会も言っていた。内容については難しくわかりづらい部分もあるが、資料としてはよくできたと考えている。本資料については、今後の環境教育の場で教材として活用できるのではないかと考えている。

(委員) 私は本会にも所属しているため、先程は点数をつけなかった。あまり御殿場市の方は、富士山が身近にありすぎて、意外とありがたみを感じていない。富士山が世界文化遺産になったが、もうちょっと学校教育などの場で富士山について学ぶ・親しむ機会があつてよいはずだが、比較的行われていないように感じる。市としては、「富士山豆博士事業」など各学校で取り組んでいるとのことだが、実際の現場でどの程度やられているのかは疑問がある。実際に植栽の現場を見ると、何故このような植物がここにあるのか、ということが多い。この資料は非常に貴重な資料だと思うので、ぜひ活用を。

(会長) 折角の貴重な資料について、より活用するために、一般市民にも分かりやすい説明をしていただきたい。難しいとは思いますが、市民協働事業としてやっているのであれば、上手く活用してほしい。

⑧ 認知症カフェの運営助成【行政提案】

団体名:(株)陽向(晴れテラスごてんば)

行政担当課:介護福祉課

(会長) カフェの運営にあたり、利用者の送迎をしているとの説明があつたが、特にそれに関する経費などが計上されていないことが気掛かり。

(事務局) 確認する

(委員) この認知症カフェが開かれている場所は、通常はどのような施設なのか。

(事務局) (株)陽向 が所有する事業所。

(委員) この事業は、来年度からは市の補助金を受けて行われるとのことだが…

(事務局) 来年度からは本補助金ではなく、新たに作られた「認知症カフェ」に係る補助金を受けて行われるとのこと。

(委員) 添付する資料の内容については、検討が必要では。資料が多すぎて確認ができない。

(事務局) 報告するにあたっての資料については検討する。

⑨ ご縁をむすび隊プロジェクト【行政提案】

団体名:ご縁をむすび隊プロジェクト

行政担当課:魅力発信課

(委員) 次年度以降の予定はどうなっているのか。

(事務局)プロジェクトの会議でまた検討していくとのこと。

(委員) 本プロジェクトについて参加しているが、「婚活」のハードルをどのように下げつつ、御殿場にかに人を増やしていくのかというものになっているが、今回はイベントをプロデュースする側の意向などもあり、「オシャレ感」満載のイベントになってしまった。運営する団体としても、手探りでやっているような状況で、御殿場市ならではの方法(自衛官特化、男女の人数を非対称に、男性は市内限定・女性は市外限定など)を検討し、次年度以降も実施していく考え。

(会長) 市民協働事業を行う、行政と協働することによってプラスアルファとなるように。

⑩ 印野 旧石田家を活用した地域振興と文化財保全【はじめの一步】

団体名:印野地区振興イベント事務局

行政担当課:農政課

(委員) イベントの開催時期が11月、12月で、寒い時期となってしまうので、もう少し暖かい時期でもよかったのではないかなと思う。

(委員) 檜の箸を作るワークショップに参加したが、参加者が思い思いに独創的な箸を作っていた。この古民家については、ニュース番組でも紹介されていたが、こういったところを訪れる機会になってよかったと思う。次にどのようなイベントを考えられているかわからないが、次も多く参加されるようになればよいと思う。

(委員) 古民家の活用ということで、非常に興味を持って見させてもらったが、もうちょっと古民家自体の説明もあってよかった。埼玉など遠方からの参加者もあり、また、子どもも楽しそうに体験していたが、若干参加者が少なかったことは気になった。

全体を通しての意見

(委員) 活動の目的と、計画、実施した内容とその結果・成果のPDCAを意識した発表もあったが、評価やアドバイスをする上で、特に結果と成果の部分をはっきりさせて発表いただけるとよいのでは。また、資料の内容や量については再度検討いただきたい。

- (教授) 今日の発表はすごくよかった。内容的にも特に行政との連携がうまくいき始めている。今後の課題として、辛口かと思うが、今日の報告会に団体が誰も来れないのは問題。卒業式に行かなきゃいけないのはわかるが、逆に言うとその狭い範囲の方しかその団体に関わっていないというか、卒業式の方が8割いたとしても誰かが来て発表してほしい。税金を使った事業なので。報告会で点数をつけることは(他市町では)なかなか無く、コメントを集めるところが多い。点をつけることは良いことかもしれない。実際に採択した時と報告時の点数差がどのくらいあるか、比較できるようにすると良い。お金の使い方についての表記がバラバラで比較しづらく理解しづらい。団体に対する書き方の指導や、こちらからの提案の仕方を考えなくてはいけない。大きな機械たとえばパソコンを買ったなど、今回だと道するべの会、ロボットを買っていて、交付金で買ったそういう物の帰属はどこになるのか。だんだんと軌道に乗ってきたがゆえにきちっとしなければいけないところがこれから出てくる。他の自治体では議会で問題になったりすることもある。団体に所属している方は点数をつけてはまずいのではないか。特に審査会になると団体関係者は審査からはずれなくてはならなくなると思う。これについてもどうするかみなさん吟味してきちんとやっていくようにしないと、軌道に乗って注目もされ、お金関係も増えてきた時に課題になる。PDCAのサイクルが何度も回ってきているので、その際の評価等を一緒に考えていきたい。

4 協議事項

(1)「消耗品」と「備品」について

- (委員) そもそもなぜ備品が駄目なのか。活動を維持するために備品が必要な場合もあるのでは。
- (教授) 基本的に事業費の補助だから、事業に要した経費には補助金負担があっても良いが、コピー機やPCなど高額な物を補助金で購入し、その帰属が団体になるというのは良くない。私の意見は他の自治体も含めて、備品であってもその事業に使用するものであればいい。ただ丸々そこに残ってはいけない。いくつかの自治体で、大きなお金を出す所ではシビアになるので、リースで1年間使って払うなら良い。または金額を原価償却の消耗期間で割って1年あたりの金額で計算する、例えば150,000円の物を10年で償却するなら15,000円/1年というように計算している自治体もある。
- (委員) 備品は団体に帰属してしまうので、あくまでも市の補助金は団体の活動の助成が大きい。備品を揃えるために補助金を渡すところまでは認めていない。今は、税抜1万円以下を消耗品、1万円以上を備品としている。
- (委員) プログラミングロボットは買い取りなのか。
- (事務局) 団体は消耗品として出しているもので、備品という認識は無いのでは。
- (委員) 金額はいくらか。
- (事務局) 領収書によるとレゴ基本セット2個で48,000円、レゴ27,500円、スタートセット25,500円をまとめて109,080円。

- (委員) 壊してまた使えるのではなく一度きりか。
- (会長) 結局それが3年過ぎたら帰属になってしまうので備品となる。でもこの事業は素晴らしい事業だから仕方ないと今年度は認めた。来年度はどうなるのか。来年も使うから買う必要が無いからロボットにかかるお金はもう無いという認識でいいのか。
- (委員) 過去に、活動にリアカーが必要で消耗品として計上して、話し合いで駄目ということになり申請前に無くなった事例がある。整合性から考えると難しいのでは。
- (会長) 今後はこの基準でやった方がいいのでは。1万円を超えるけれど備品と認めるケースバイケースは認められるのか。
- (委員) どうしても必要ならば仕方ないのでは。
- (教授) さっき言ったリースや減価償却の方法もある。この方が柔軟に対応できるが、大変だから1万円で切るやり方もある。
- (委員) リースや減価償却の方が比較しやすい。
- (委員) リース代はその事業だけに使われているものであれば問題ない。
- (委員) カフェの椅子は1万円以下だから消耗品、レゴは2万だけど1パーツ当たりで計算するのか。
- (委員) ロボットを自分で買うのは大変ならば、全部の金額を割って、この金額だけは助成する、とできればその事業に対する夢がある。
- (委員) うちの基金では消耗品、備品関係なく、購入単価が1万円を超えたら自己負担。
- (委員) 散々市民活動をやっている立場からすると、やりたくても高い物は買えない。
- (教授) ケースバイケースがまずいとっている理由は、協議会が決めるところではなく、市としてどういう風にするかルールがないからまずい。ルールを協議会で決めて、決めたルールが市のルールに反さなければ良い。御殿場市では減価償却は良いのか。
- (委員) 補助金は単年度の交付決定。減価償却は複数年の考え方。補助金は3年。難しいのでは。
- (教授) 補助額を決めるという方法もある。減価償却は便宜上計算するだけで、10万円のパソコンを買ったら1年間で1万円など。
- (委員) 市民活動を応援したいが、あまりゆるくするのもどうか。
- (委員) 最終的には、公費を使っているのでより多くの人々が納得できる使い方という目で見ると必要。
- (委員) 市のルールでは1万円以上は備品だから備品については単年度で、活動団体の夢を考えたら何年かに割って…
- (委員) 補助金をもらったからこの団体はパソコンを買えたと誤解されないように、リースにできるならリースにしても。その方がその1年間しか使わないという建前になるので市民がわかりやすい。
- (教授) 今の話から言うと、1万円ですっぱり切ってそれ以上は出さないということはなさそう。
- (委員) 他の市町はどうしているのか。
- (事務局) 逗子市の補助金では備品は認めていない。市の備品の考え方もそれぞれ。御殿場市は1万円、3万円以上とやっている他市もある。例えば、今回の道しるべの会が子ども家庭センターと協働事業を終えた後、子ども家庭センターが何かやる用にそこに置いておく形であれば良いのかな。
- (委員) 市の備品になってしまうと1万円以上だから備品の決済とかあるのでは。

- (会長) どんな事業がでてくるかわからないことを、こんなに時間をかけて話し合うのか。
- (教授) 今の話し合いでだいたいの雰囲気があったので、次回に今の意見をまとめて原案を出してもらおうことでよろしいか。
- (会長) はい。
- (委員) そもそも発達支援は個人では買えないから事業として提案をして、協議会で認めて OK を出した。この団体が悪意をもって自分達の子供のために使ったということはないと思う。今後も臨機応変に話をしていくしかないのでは。ルールを決めることによってすばらしい事業を応援できなくなるのはどうなのか。
- (教授) その通りだ。けれど、そういうことを理解してくれる市民の方ばかりではない。どうして税金で個人の所有物を買ったのかと言われた時に、協働の仕組み自体が危うくなる。みんなそれぞれ良い事業なのだけれども、これは 30 万だからまだ大きな問題にならないが、100 万になると完全にアウト。だから金額の多寡でルールを決めるならば 1 万円で切る。1 万円以下ならば公費で買えるから。今回のロボットは稀なレアケース。今市の備品のラインが 1 万円なので 1 万円超えたらリースにするとかにする。今回のようなレアケースでこれは仕方ないよねというのが出てきた場合はその都度審議する。最終的には行政。協議会は意見を述べるだけ。
- (委員) 市の決まりで 1 万円となっているのにここで議論していることがよくわからない。P12 に備品は駄目と書いてある。市が備品とは 1 万円以上のことを言うと書き加えればそれで終わりでは。
- (委員) 基本 1 万円で、この先良い事業があった時に協議会で認めて OK にして、事務局が駄目というまで OK で良いということか。
- (教授) そういう非常識な決定を協議会はしない。
- (委員) みんなが良いと言えばまた考えるということか。
- (教授) この事業は非常に素晴らしく市民に貢献し、なおかつこの機器は特殊で 50 万だったら駄目だけど 3 万なら認めようかという意見を言うことが、内容によってはあってもいいということ。それが最終的な法令違反になるような財政的な情勢が揺らぐようなことには行政は拒否するだろう。
- (委員) 協議会は話し合うだけ。決定は行政。議論する余地が無い。
- (委員) 私もそう思う。
- (委員) その審査をした時にどうしたらいいか。
- (会長) 全体でいくらじゃないと。1 体いくらではわからない。
- (委員) 高いとはわかっていた。それでも良いと言った。
- (会長) 申請書は事務局が全部チェックするから細かいところはいいという話になった。お金のことは言わず内容を話し合っしてほしいということだった。高価だけれど消耗品だから良いとの話だったのに備品と言うから。事務局がこれはリースでいいのではないかとアドバイスしたら良い。
- (委員) 予算書だけで判断するのは大変。領収書で判断するなら備品とすぐわかるけれど、予算書は内訳をみていかなければならない。
- (事務局) 予算書に内訳まで載せてくるかもわからない。
- (委員) 予算書でわからなかった時は精算時にやればいい。単価 1 万円を超えたら見積書を出すなどすることが必要。
- (事務局) 意見をまとめて 4 月 20 日に皆さんに示す。

(2)新補助金制度について

(3)平成 30 年度予定について

* 第 1 回御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会

日時:4 月 20 日(金)午後1時～ 場所:御殿場市役所 東館 2 階 206 会議室

* 平成 30 年度御殿場市市民協働型まちづくり事業審査会

日時:4 月 26 日(木)午前 9 時～午後.3 時 場所:御殿場市林業会館 1 階 第 1 研修室

5 その他

6 閉 会